

家庭、技術・家庭科研究委員会 公開授業研究会報告

1, 公開授業について

(1) 研究テーマ

自ら課題を持ち、知識や経験を生かしながら追究を深め
生活に生きる力をつける家庭科学習はどうあったらよいか

(2) 期日 平成17年10月12日(水)

(3) 題材名 「まかせてね今日の食事」～地域の伝統食に目を向けよう～

(4) 指導者 上田教育事務所教育支援主事 芳原 慶子先生

(5) 授業学級 6年生

(6) 授業者 山口 理恵子 教諭

2, 授業の様子

(1) 本時の主眼

やわらかい団子の「ひんのべ」にしたいと願う子どもたちが、名人の示範や教師・友達のアドバイスを参考にして、粉のこね方やねかし方、のばし方等に着眼しながら調理することを通して、願いに近い「ひんのべ」を作ることができる。

(2) 授業の実際

同じ願いを持つ子どものペアで「ひんのべ」を作ったところ、団子が大きい、丸い、厚い、作るときに乾いてしまった、こねすぎたなどの原因でほとんどの班が「固い」「生煮え」のだんごの「ひんのべ」になってしまった。

本時までの様子

2回目は「やわらかい団子のひんのべ」になるように、自分たち(ペア)の課題を話し合った。

本時

地域のひんのべ作りの名人の方に、実際にひんのべを作っていただき、「やわらかい団子」にするためのポイントを確認し、自分たち(ペア)の課題を確認・修正した。



ペアごとに課題を確認しながらひんのべを作った。名人の示範から「こねすぎない」「生地をねかす」「うすくのばす」ことを意識しながら団子を作る子ども達の姿が見られた。また名人の野菜の切り方を見て火が通りやすいように千切りにする子どもや、アクを取る子どもの姿もあった。分からないことや不安なことがあると、ペアの友達や名人に聞いたり、先生の用意したヒントカードを参考にしながら実習を行った。

できあがったひんのべを参観した先生方と一緒に試食し、評価をしてもらった。子ども達自身も前回より「やわらかい団子」のひんのべができたことと自己評価ができた。また「家族の好きな具に変えて作ってみたい」「おばあちゃんと一緒に作ってみたい」「家族がお代わりをしてくれるようなひんのべを作りたい」と家族に思いを寄せながら、家庭での実践意欲を持つことができた。

(文責 研究推進委員長 小布施中学校 小出真樹子)